

## 拡大する中国債券市場の現状と課題

村松 健

### 目 次

1. はじめに
2. 中国債券市場の概要
3. 債券発行による人民元調達
4. 中国債券市場への投資制度
5. 残された課題

中国債券市場は残高8.7兆米ドルと、世界第三位の規模である。発行体は政府、政策性銀行、投資家は銀行が中心であるが、一方、流通市場は未成熟となっている。規制緩和等により債券やオフショアを活用した人民元調達が拡大している中、様々な投資制度が存在し、特に債券通は利便性が高い。今後は流通市場整備など質的向上が課題であるが、日本の投資家の中国債券市場への投資拡大と、金融ビジネスの取組みを期待したい。

### 1. はじめに

中国本土の債券市場(注1)が注目を集めている。中国債券市場は経済規模の拡大や当局の後押しを受け急激に成長し、2017年末には発行残高8.7兆米ドル超と、米日に次ぐ世界第三位の規模にまで到達した。また、世界的な金融緩和による低金利環境下、相対的に高い6%台のGDP成長率を背景に、相応の金利水準が確保可能な貴重な市場として、存在感を増している。

一方、中国当局は足元債券市場の対外開放に力

を入れており、17年は債券通(Bond Connect)という海外投資家の参入を加速させる枠組みが導入されるとともに、18年1月には、みずほ銀行と三菱東京UFJ銀行(現・三菱UFJ銀行、以下同じ)による、日本企業初のパンダ債発行が実現している。本稿では、主として新興市場へ投資を行う投資家の立場に立脚し、中国債券市場の現状や投資制度を概観するとともに、更なる成長のための課題につき考えてみたい(注2)。



村松 健(むらまつ けん)

みずほ証券(株)企画グループ グローバル戦略部ディレクター。1996年日本興業銀行に入行。富山支店、業務部、証券部、広島営業部、証券部を経て、2015年12月より現職。著書に『銀行実務詳説 証券』(共著、金融財政事情研究会)、『NISAで始める「負けない投資」の教科書』(共著、東洋経済新報社)、『中国債券取引の実務』(共著、金融財政事情研究会)。日本財務管理学会所属。